

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもプラス藤代教室		
○保護者評価実施期間	7年2月1日		7年3月1日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数) 9
○従業者評価実施期間	7年2月1日		7年3月1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	7年3月20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	小さいお子様が体を動かす為のフラットなスペースや広さがあり、跳び箱・鉄棒・マット運動・大縄跳びをはじめとした運動遊具を使ったり、お子様ならではの かけっこや・鬼ごっこ・ダンスなどといった遊びの提供も安全を確保しながら提供することができる。	その日のお子様のコンディションによって、運動遊びを考えており、運動遊び中はケガの無いように、常に職員も間に入って参加しすぐにサポートや介入・補助ができるようにしている。人数が多い場合は、2組に分かれて交互に行うことで、接触のリスクも緩和できると考える。	状況によっては、運動内容を変更しても対応できるように、別の運動遊びも考えておいたり、迷った際は事前に運動リーダーだけに限らず、他の職員からも提案を行っている。
2	切り替えの難しいお子様も多い中、1つずつ遊んで、片づけてから次の遊びに進めることなど、お子様がすぐに届く場所におもちゃはなく、大人が出し入れすることで、自分で伝えて・お約束をして・遊ぶ・片付け等までの流れの見守りや・声かけ・介入を行う環境づくりをしている。	切り替えの難しいお子様には、事前に予定やお約束をしたり、つまづいてしまった時は、本人の気持ちを上げる声かけや促しを行うことで、少しずつ出来る事を増やしていく。職員間でお子様に対する支援の仕方を考え共有し連携することで、より良い支援に繋がっている	お子様に合った声掛けや対応の仕方などを考え細かく周知している。
3	自分の身の回りの事・靴や靴下、衣類の着脱など、生活の中で必要な自分の事に取り組む・行う・できるに繋がる様な支援や誘導・提案し出来る様にする事で、自信をもち自己肯定感を上げていき、成功へと繋げている。	衣類の着脱に関しては個人差があり補助の仕方や声掛けの内容も違う為、性格や指先の使い方等をよく見て確認したうえで、苦手なことは少しずつ取り組めるように、出来ることは伸ばし次に繋がる様に、職員とも細かく報告し合いながら行う。沢山褒めることで笑顔を引き出す事。	難しい職員には近くで見てもらい、様子を確認してもらう

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	男性職員がいない	女性職員のための、力の強い子への対応は厳しい状況ではある。怪我防止に勤め、危険な場合は事前に判断して中止を促す。	お子様とのコミュニケーションを沢山とることで、特徴を把握し、安全に楽しく過ごせる環境づくりを行なうことで、パニックにさせない様にしている。
2	お子様の現在の様子をお伝えしきれない場合がある	お子様の様子を連絡帳やライフライン・送迎時にお伝えすることになっているが、教室内でのトラブルやアクシデントなど状況によっては連絡帳が書けない場合もある。職員間での周知が難しい場合もあり、送迎時に伝えそびれてしまう。	今後の対策といたしましては、全職員の周知への意識づけの徹底化を測るとともに、伝え忘れなどがあつた場合はライフラインを利用し保護者様へ連絡を行う。
3			